

## 保育計画成果報告書

法人名等	(個人)
施設名	ひよこ保育園
報告者(役職)	小田中 清子
住所・連絡先	岩手県花巻市下似内 10 - 23 - 1  0198 - 41 - 4150 Mail : hiyoko-hoikuen@echna.ne.jp

### ○タイトル(保育計画)

「元気な子ども」～心も体もしなやかにすくすくのびのび育つ子～

### ○主な助成備品

- ・すべり台
- ・鉄棒

## 1. 保育計画策定の目的

当園は宮沢賢治の生誕地、岩手県花巻市にあります。0, 1, 2歳児専門の定員19名の小規模保育園です。

当園を取り巻く環境は南側には北上川が流れ、イギリス海岸と称されている所です。その泥岩層の浅瀬には、魚の泳ぐ姿、鴨や白鳥の群れが泳ぎ、鮭の遡上も見ることができます。対岸の林からうぐいすや小鳥のさえずりが聞こえます。ゆったりとした自然を感じることができます。しかし、北側は市道に面していて交通量が多く歩道もなく安全が確保されないため散歩に出かけることができない状況にあり課題となっております。

当園の理念を「輝け！子どもの命と笑顔、はじめの一步はひよこから」とし、0, 1, 2歳児専門の園ならではの子どもさんやお母さんの不安な初めの一步を安心に変える丁寧な保育を心がけております。目指す子ども像は「元気な子ども」「やさしい子ども」「考える子ども」です。その中の「元気な子ども」の姿として～こころも体もしなやかにすくすくのびのび育つ子～としております。3歳までの心身の発達は人生の中で最もドラマチックなものです。その伸びようとする力を大いに刺激し、身体機能の発達を促すためには今の環境を補う工夫が必要であると考えました。

その一つの保育方法として子どもが興味を持って自ら体を動かして遊びたくなる園庭の環境の整備に取り組むこととしました。とりわけ「握る力が弱い」「ぶらさがってられない」という当市の小学生の状況を聞き、遊びの中で、様々な体の動きや力を培っていきけるよう鉄棒の設置と子どもの興味を引く大型遊具の設置を環境の中心におきながら、0, 1, 2歳児に適した園庭の環境整備を考えたいと思いました。

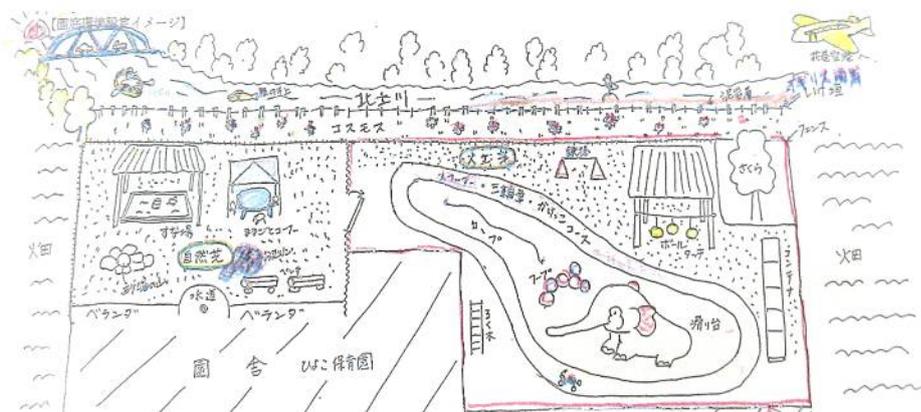
## 2. 具体的な実施内容

### ① 園庭の拡張をする。

0, 1, 2 歳児がより体を動かせるように園庭の拡張(職員駐車部分を園庭に変更)を行った。

### ② 0, 1, 2 歳児の発達過程に配慮した園庭イメージ図の作成をする。

身体機能の発達(つかまる、ハイハイ、のぼる、おりる、ぶらさがる、走る、でこぼこ歩き等)が遊びの中で培われるように、助成備品の配置などを工夫し、イメージ図の作成をする(実際は整備するにあたって若干変更されている)。



### ③ 年齢別プログラムの作成をする(元気な子ども)。

保育計画概要			
(1) 保育計画タイトル 「元気な子ども」～心も体もしなやかにすくすくのびのび育つ子～			
(2) 具体的な保育内容および期待される成果			
園庭に子どもが興味を持ち自ら体を動かして遊びたい環境を設定し、感覚機能や身体機能の発達を促す			
歳	保育内容・プログラム	環境設定	期待される効果
0 歳	<ul style="list-style-type: none"> <li>小さな段差を乗り越える</li> <li>トンネルをくぐる</li> <li>棒につかまって立つ、しゃがむ</li> <li>壁面につかまってつたい歩き</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>芝生でハイハイできるように危険がないよう点検する</li> <li>トンネルの設置</li> <li>捕まって立てるコーナーの設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>背筋の発達が促される</li> <li>首が強くなる</li> <li>足の筋力が発達する</li> <li>バランス感覚が育つ</li> <li>走る時期にこぼさない筋力が育つ</li> </ul>
1 歳	<ul style="list-style-type: none"> <li>段差ののぼりおり</li> <li>でこぼこ道歩き(縄の上歩き)</li> <li>箱に出たり入ったり、押して歩く</li> <li>肋木渡り(横・縦)</li> <li>鉄棒ななめそらし、ぶら下がり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>肋木の設置</li> <li>コンテナ大小を設置し、跨いで出入りや登ったりできるようにする。</li> <li>滑り台、鉄棒の周りにマットを敷き安全に遊べるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感覚統合</li> <li>感触を味わう</li> <li>繰り返しの楽しみ、達成感を味わう</li> <li>細かな作業に挑戦する</li> <li>股関節の発達を促す</li> </ul>

以下2歳、3歳省略

④ 園内研修会において活動の報告をする。＜助成をして頂いた遊具での活動状況＞



＜鉄棒なめそらし・ぶらさがり＞

1歳児：2/8 2歳児：8/9ができた  
台で高さを調整するなど意欲的に挑戦



＜滑り台の階段登り・滑り降り＞

1歳児：1段ずつ登れるようになる  
全員スピードを自分で調整して降りられます



＜（奥）豚の丸焼き（手前）どらやき＞

2歳児：3/9が豚の丸焼きができる。  
支柱にしがみつく技を2歳児自身が「どらやき」と命名



みんなゾウさんの滑り台が大好き！順番ね



片足あげ 届きました！



片足でバランスとってのれました。

＜その他園庭環境整備での活動の様子＞



砂山のぼり



タイヤわたり



かけっこ



肋木わたり



キックバイクサーキット

はしる、のぼる、わたる、けるなどいろいろな体の動きを体験し、身体をコントロールしたり、  
感覚統合など滑らかな体の動きや筋力がつくなど自然に遊びの環境の中で培っています

### 3. その成果と評価

開園当初の園庭の広さを倍にすることで、0，1，2歳児の身体機能の発達を促す要素を取り入れた環境設定に近づき、さらに助成を頂いた遊具を設置することで子どもたちが自ら体を動かして遊びたくなる魅力的な環境となりました。

特にぞうの滑り台は当園の園庭のシンボルになりました。園庭に出ると「ゾウさんに行こう！」とまっしぐらに走り出す子どもたちです。

滑り台の階段を昇る、滑り降りる。鉄棒を握る、ぶらさがる、足をかけ全身の重さを感じる、支える、など自ら試し挑戦していく主体的な姿が見られました。

0，1，2歳児は身体的発達が著しく、運動機能も同様であることから、環境設定のみの効果と判断することはできませんが、環境設定がその発達を促す要因の一つとなっていると言えます。0，1，2歳児においては様々な動きをより多く経験することを第一とし、データとして成果を測るにはより年齢が上がった段階での作業と考えます。

そのことから保育計画の中の期待される成果として「子どもが興味を持ち自ら体を動かして遊びたくなる環境を設定し、感覚機能や身体機能の発達を促す」という目的は子どもたちの主体的な姿から達成されていると感じております。

### 4. 今後の課題と展望

保育所保育指針等において「環境を通した保育の重要性」がいわれておりますが、環境を整えただけでは、ただ遊ばせている保育になってしまいます。頂いた遊具による環境整備がより子どもの発達において生かされるように今後も保育の努力が必要であると考えます。0，1，2歳において培った育ちが3歳以降、小学校、中学校と成長するしなやかな体の基礎となることを確信しています。

今後も子どもが遊びながら、感じたり、発見したりしていることに保育士が気がつき、さらに環境を構成していくこと。子どもの思いを一緒に感じ、一緒に不思議がり、一緒に楽しんでいく。子どもの姿から学んでいくことを忘れない保育の職員集団であり続けたいと思います。

以上